

## 〔自主保安に係る点検協力活動〕

### 令和5年度 自主保安点検協力活動報告概要

【対象事業所】 株式会社ジェー・シー・オー 東海事業所

【実施日】 令和5年11月22日（水）

#### 【点検協力実施者】

東京大学大学院工学系研究科原子力専攻

准教授 博士（理学）

坂上 和之

公益財団法人核物質管理センター 東海保障措置センター

技術副主席（核燃料取扱主務者）

伊藤 寛

日本照射サービス株式会社 東海センター

照射サービス部長付 第一種放射線取扱主任者

宮内 優



#### 【事業所の概要】

株式会社ジェー・シー・オーの親会社である住友金属鉱山株式会社は、昭和32年から新しいエネルギー源として原子力の平和利用実用化のため、核燃料の製造技術の研究開発につとめ、独自の溶媒抽出法による六フッ化ウランから二酸化ウランへの転換技術を開発した。

昭和44年8月に、住友金属鉱山株式会社核燃料事業部として転換加工事業の許可を受け、昭和48年2月、東海工場を完成、同年3月操業を開始した。

事業の進展に伴い、昭和55年12月には日本核燃料コンバージョン株式会社として独立し、昭和58年4月、第2加工施設棟を完成した。

また、事業拡大を目的として平成10年8月に、株式会社ジェー・シー・オーに名称変更した。

平成11年9月に臨界事故が発生、翌日に臨界状態が終息。平成12年2月に「企業行動計画」を策定、公表。平成12年3月に加工事業許可取消しの行政処分を受け、使用許可に基づき各種作業を実施。平成12年9月に工程内のウランを回収して搬出（約260トンU）し、小規模核燃料使用者となる。平成15年3月に刑事裁判判決。平成15年4月に再転換加工事業の再開を断念、公表。平成17年5月～平成18年3月に第3管理棟（事故現場）の設備撤去。

現在の業務は次の「1.」及び「2.」。

##### 1. 原子力施設の維持管理

- (1) 旧加工施設の管理（日常点検、定期点検）
- (2) ウラン廃棄物の保管管理
- (3) 海洋放出専用排水管（約8km）の維持管理

## 2. 将来の廃止措置に向けた準備

(1) 設備撤去及び管理区域解除の工事

(2) 保管溶媒の焼却処理（完了）

(3) ウラン残渣のウラン回収処理委託【ウランプロジェクト】

住民の皆様とのコミュニケーションを図るため、臨界事故後、随時お知らせを発行するとともに、住民説明会（年1回）を開催してきた。

平成26年の焼却設備設置以降、焼却活動第三者会議の設置及び運営（年2回）、線量調査会の設置及び運営（年4回）、JCOホームページの開設及び運用、近隣4自治会役員への情報提供（年1回）、定期住民説明会（年1回）の案内対象拡大に取り組んだ。

令和7年度末までに、大きな設備の撤去は全て終える予定。

令和8年度以降に第1種管理区域として残るのは、第1管理棟の一部及び総合排水処理棟のみとなる予定。

令和8年度以降は、ウラン廃棄物を搬出終了するまでの管理業務に特化することが目標。

### 【当日の活動の概要】

第3会議室において東海事業所の概要の説明を受けた後、第2管理棟（第1種管理区域）などの主要施設の巡視を行った。

点検シートに基づき、今回の重点項目を含めた質疑・応答形式による意見交換を通じて、JCOにおける事故・トラブル発生防止の取組み状況について確認した。

### 【良好事例】（スケジュール順）

#### （1）第一種放射線管理区域入口箇所への「緊急時連絡体制」及び「有資格者一覧」の掲示

主要な「設備撤去及び管理区域解除工事の現場」である第2管理棟（第一種放射線管理区域）入口に、「緊急時連絡体制」及び「有資格者一覧」が掲示されている。

#### （2）グリーンハウス入口への「作業毎保護具着用チェック表」の掲示

第2管理棟内のグリーンハウス入口に「作業毎保護具着用チェック表」が掲示されていたため、保護具の装着漏れ防止に有効である。

#### （3）錆及び損傷のないドラム缶でのウラン廃棄物等の整然とした保管管理

加工事業（操業）並びに施設の維持管理及び設備解体で逐次発生したウラン廃棄物等は、錆及び損傷のないドラム缶に詰められて整然と保管管理されている。

#### （4）屋外配管、サポート、建屋外壁の早めの補修又は塗装

設備担当者が日々巡視を行い、屋外配管、サポート、建屋外壁に補修及び塗装の必要があると判断した場合には、早めに補修又は塗装している。

#### （5）ドアの廊下側開閉範囲のマーキング

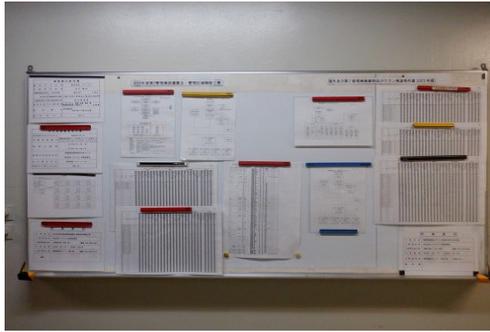
事務棟会議室のドアの廊下側開閉範囲にマーキングが施されていて、人とドアとの衝突防止に有効である。

#### （6）海洋放出専用排水管（約8km）の厳格な維持管理

全線を電気防食し、常時監視システムを導入するとともに、毎月1回全てのマンホールを開けてバルブ等からの漏えいの有無を確認することで、排水漏えい防止に万全を期している。

#### （7）協力会社との緊密なコミュニケーションに基づく整理整頓

社員2人が1組となって現場をパトロールして、整理整頓が不十分な箇所や古い表示があれば協力会社に指摘するコミュニケーションに基づく整理整頓が行き届いている。



(1) 緊急時連絡体制、有資格者一覧



(2) 作業毎保護具着用チェック表



(4) 屋外配管及びサポートの補修・塗装状況



(5) ドア廊下側開閉範囲マーキング

**【改善提案】**

(対応状況を事務局へ報告する必要なし。)

**第2管理棟の第一種管理区域入口に掲示されている「有資格者一覧」の文字を大きくすると、有資格者が容易にわかる。**

**【提案事項】**

(対応状況を、事務局が送信する「対応状況確認シート」に記入して、事務局に報告する。)

なし

以上